

S-face

SFC makes the future through researches

プライマリヘルスケアで 健康格差のない世界を

藤屋 リカ

VOL.

003 /100

2015.Jun 発行
和の色: 萱草色



健康の格差を許さない PHCの根本理念

私の研究テーマであるプライマリヘルスケア (Primary Health Care: PHC) は、1978年9月に世界保健機関 (WHO) と国際連合児童基金 (UNICEF) の合同会議が中央アジアのカザフスタンで開催され、そこで示された「アルマ・アタ宣言」によって定義づけられたものです。具体的には、世界中で保健・医療をより身近なものとし、公平性、住民参加、予防活動重視などの実現を目標とした理念であり、方法論です。

PHCの考え方は、1.住民ニーズの尊重、2.住民参加、3.地域資源の活用、4.包括的な保健システムを地域で担う、以上4つの原則に立ち、アルマ・アタ宣言では「2000年までに世界中の全ての人を健康に」という理念を宣言しました。その根本にある思想は、“健康の格差は許されないものである”ということだと私は考えています。

アルマ・アタ宣言が示した具体的な目標そのものは、残念ながら2000年までに達成できませんでした。しかし、その反省に立ち2000年以降、PHCの考え方に基づいて、グローバルレベルで乳児や妊産婦の死亡率の減少を目指した母子保健の向上や、感染症予防対策が採られ、たとえば東南アジア地域では一定の成果を挙げています。

激動するパレスチナの保健衛生に携わる

PHCの実践と研究のフィールドとして、私が最も長く関わっているのがパレスチナです。現在、特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター (JVC) の保健アドバイザーという立場から、東エルサレム地区とガザ地区におけるプロジェクトに関わっており、SFCの学生たちも研究と実践の一環として参加をしています。

東エルサレム地区では、イスラエル側によって作られた「壁」により分断された地域での、学校健診や保健教育を行っています。なかでも私が関わっているのは、ToT (Training of Trainers) と呼ばれる、現地で保健教育を担うリーダーの養成です。現地で30年に渡って活動している医療系NGO (※) とともに、学校の保健委員の生徒を対象にした全20回ほどの教育コースを実施し、その教育がより適切に進行しているのか、どのような課題があるのかなどについて、専門家として助言をしています。現地スタッフによる活動は定着しはじめており、活動の持続可能性に関心が移りつつあります。

ガザ地区はイスラエルによる封鎖や軍事攻撃によって、人や物資の移動が厳しく制限されており、子どもたちの栄養失調や貧血、それによる長期的な発育への悪影響が懸念されています。JVCでは、子どもの栄養改善に関わる事業を実施し、2011年までは幼稚園児に対して地元で生産された鉄分強化牛乳や栄養ビスケットの提供と栄養教育を中心に実施してきましたが、現在はより、教育や地域での栄養活動を担うリーダー養成の活動に移行してきました。私は2002年から、こうした支援活動に関わっています。

※非政府組織



健康は誰もが持っている 基本的な権利である

戦火の止まないパレスチナをはじめ、世界各地の紛争地や開発途上国で、NGOなどと協働しながら地域保健活動に従事。

現地で暮らす人々とともに実践と研究を重ねながら、その豊かな経験と知識を、次代の若者たちに伝えていくこと。

そして、「アルマ・アタ宣言」で掲げられた、健康と人権についての理念を、実学として追求していくこと。

藤屋リカ専任講師の研究活動は、今後さらに重要性を増す、国際保健の核となるプライマリヘルスケアの確立と実践です。

Activities in Palestine with Japan International Volunteer Center

パレスチナでのプロジェクト



2014年夏に軍事攻撃を受けたガザ地区の建物。撮影したのは2015年1月で半年が経っていたが、ガザ地区外からの物資調達に制限があり、復興が進んでいない。



パレスチナの女性たちが手仕事で作った伝統刺繍の品々。これらの商品開発や販売をすることで、紛争による経済危機下での女性の収入を創出している。

東エルサレムの小学校で、保健委員会の子どもたちが低学年の子どもたちに健康教室を実施している様子。このように、学校内で保健教育ができる環境作りをサポートしている。

Congo Acadex Project by Medical Team

コンゴアカデックスプロジェクト



医療チームの活動として、小学校の子どもたちを対象とした健康診断を実施。慶應義塾大学医学部の教員と、現地の医師が協働で実施している。

現地の人たちと共に 課題を乗り越えていく

PHCの研究・教育として、大学の立場で関わっているのがアフリカのコンゴ民主共和国と東南アジアのラオス人民民主共和国です。

「コンゴ民主共和国アカデックスプロジェクト」では、教育・建築・医療の3領域による共同研究プロジェクトとして、小学校での健康診断やワークショップによる健康教育、地域の保健衛生状態の把握などに取り組んでいます。

学生の教育研修として行っているのが、「ラオス・プライマリヘルスケア研修」です。ここでは、ラオス国内で活動をしている国際協力の主体である、WHOやUNICEF、JICA (※) などの役割や活動を知るために、保健衛生関連のプロジェクトの見学実習や、村に滞在して小学校で子どもたちへの健康教育を行っています。

こうしたPHCに関わる教育や研究、そして実践を通して思うのは、“健康は誰もが持っている基本的な権利であり、その格差は許されない”ということです。

学問としてのPHCには、紛争地など過酷で流動的な現場でいかに支援を継続し、それをエビデンスに基づいた研究として発表していくかという課題があります。しかし、こうした課題を乗り越え、現地の人々と共に何かを作り上げていくことができたらと考えています。

※独立行政法人 国際協力機構



Profile 藤屋 リカ

慶應義塾大学看護医療学部専任講師。東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻博士課程修了。専門はプライマリヘルスケア、グローバルヘルス、健康と人権。

詳しくはWebサイトへ

詳細インタビューや動画も
ご覧いただけます

S-face

検索



慶應義塾大学SFC研究所
慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322
Tel: 0466-49-3436 (ダイヤルイン)
E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp